

北のリーダーが語る
“次の一手”



マッケンジー法の認定資格者
2人体制で治療の可能性広がる

飯澤 剛氏 篠路整形外科 理学療法士
金子 翔拓氏 篠路整形外科 作業療法士

「腰の激痛がその場で消失し、急性も慢性も腰痛の90%以上が改善した」として、近年急速に注目を集めているマッケンジー法。現在、道内の医療機関で唯一マッケンジー法の認定資格者が2人在籍する篠路整形外科（札幌市北区篠路4条5丁目3番9号・011・772・7255）の飯澤剛理学療法士と金子翔拓作業療法士に話を聞いた。

篠路整形外科でのマッケンジー法への取り組みについて教えてください。
飯澤 当院では、腰痛や頸部痛に対する保存療法として07年よりマッケンジー法を取り入れ、私が2010年4月に、金子作業療法士が11年12月に、きちんとした教育を受けてきたという証であるマッケンジ

1法の認定資格を取得して、2人体制で治療を実施しています。また、院内において講習を開催し、スタッフ全員が実際に臨床の場面での応用を行っている。腰痛や頸部痛に対する積極的な保存療法を実践しています。池本吉一当院長と理学、作業療法士のチームが適切な治療を行う体制

を完備し、腰痛、頸部痛の改善に成果を上げています。
——マッケンジー法とこれまでの腰痛、頸部痛治療とを比較しての大きな違いは。
飯澤 従来の治療法ですと、痛みのない方向に動かして治療していくというのが基本ですが、マッケンジー法ではあえて痛みのある方向にも

反復的に動かし、その反応を見て治療法を見出していきます。腰椎の真ん中にある髄核は、身体を前に曲げると後ろへ移動してしまつて、神経を圧迫しやすい。生活の中では前に曲げる姿勢が結構多いので、生活しているうちに髄核が神経を圧迫して、腰の痛みや脚の痺れが出たりします。

それを腰を反らすマッケンジー法で内側に戻すことにより、髄核が身体の外側から内側に入ることで、神経の圧迫がない状態を作ることができるというのがマッケンジー法の簡単な理論です。外側に寄った髄核を内側に戻すことを何十回も繰り返すことで、最終的に髄核が真ん中に収まって、椎

間板ヘルニアが消失したという報告もあるそうです。
——ヘルニアで手術をする必要のある症状の人でも、マッケンジー法によって改善が見込めるといえることですか。
飯澤 手術が必要だと言われる症状をお持ちの方でも、実際に症状が消失して日常生活に影響がなくなった状態にまで回復した方もいます。手術には術後後遺症等のリスクが伴いますが、保存療法のマッケンジー法では、そのリスクを回避することができる可能性があるとということです。

知識と技術を高め
より良い医療を

——認定者が複数在籍している医療機関は、北海道で唯一ということですが。
金子 資格取得者は、道内全体でも5人だけです。各メディアで紹介されたこともあり、今後は講義を受ける方が増え、認定者も増えていくと思われるのですが、現在2人体制は当院だけです。

飯澤 これまで施術した患者さんは2人合わせて500人を超え、「痛みがなくて生活できるようになった」という方も多くいらっしゃいます。また、他のところで「手術するしかない」と言われていたのが、症状が消失したために手術せずに済んだ患者さんも相当いらっしゃると思います。
——認定者が飯澤さんお一人だったのが、金子さんが加わったことはやはり大きいでしょうか。
飯澤 マッケンジー法は腰だけの治療法ではないので、自分

で、金子作業療法士が首から上肢に特化したマッケンジー法を行ってくれています。2人で行うことで治療の幅が広がったことによる相乗効果は大きいと思います。
金子 ヘルニアは腰だけでなく首にもあります。上肢の痛みとか痺れが出た場合には、首のマッケンジー法が効果があることも多いです。お互いに相談しながら治療できますし、1人の患者さんに対して2人で関わることもできるので、そういった意味では心強いですね。
——今後の抱負をお聞かせください。
飯澤 腰痛治療に限らず、今以上に知識の幅を広げ、診る目を養い、より良い治療法を患者さんに提供できるように考えています。

なれたらと思っています。
金子 現在のところマッケンジー法は腰痛治療で有名ですが、けれども、実は全身の関節、腱など、どの部位にも応用できます。その部分をもっと広めていけば他の部位の治療の選択肢の1つとなるので、腰痛に限らず、いろんな部位に適用できるようにしたいと考えています。

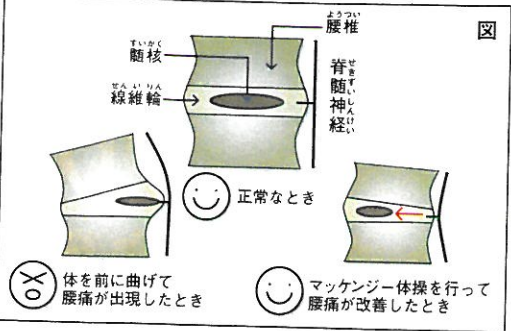
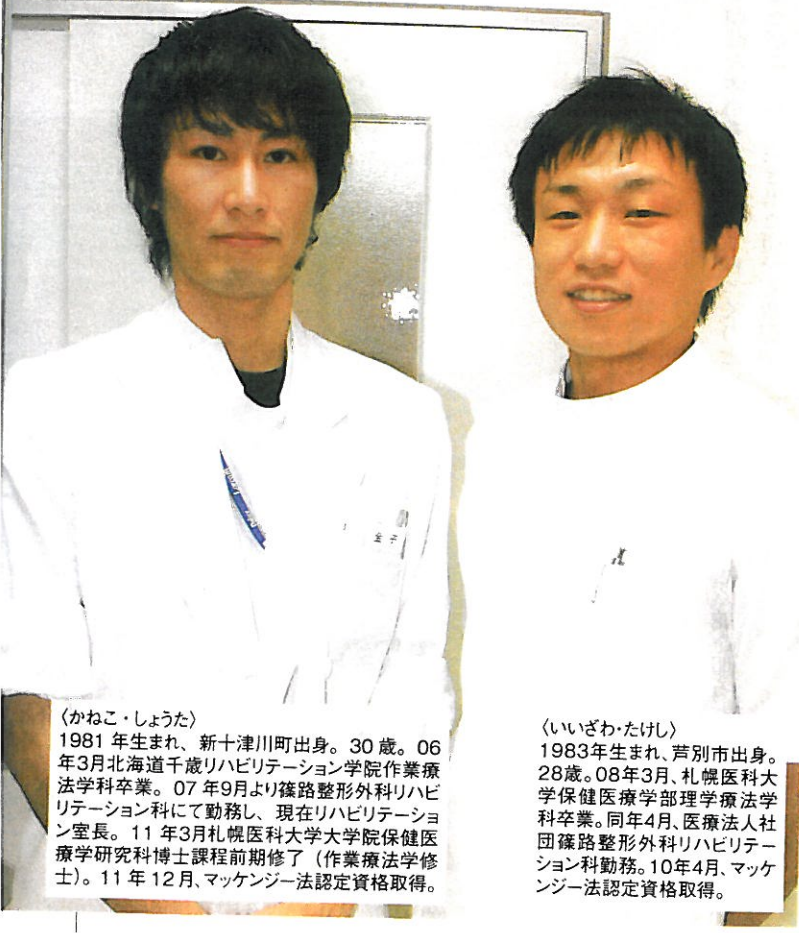


図
正常なとき
マッケンジー体操を行って腰痛が改善したとき
X 体を前に曲げて腰痛が出現したとき



（いいざわ たけし）
1983年生まれ、芦別市出身。28歳。08年3月、札幌医科大学保健医療学部理学療法学科卒業。同年4月、医療法人社団篠路整形外科リハビリテーション科勤務。10年4月、マッケンジー法認定資格取得。

（かねこ しょうた）
1981年生まれ、新十津川町出身。30歳。06年3月北海道千歳リハビリテーション学院作業療法学科卒業。07年9月より篠路整形外科リハビリテーション科にて勤務し、現在リハビリテーション室長。11年3月札幌医科大学大学院保健医療学研究科博士課程前期修了（作業療法学修士）。11年12月、マッケンジー法認定資格取得。